

巻頭言

何でも見てやろう



MIYAZAKI Shigeru

研究管理監（北海道担当） 宮崎 茂

4月から研究管理監として北海道支所勤務となり、朝起きたら先ずカーテンを開けて藻岩山の姿を確認する生活が始まりました。住居に決めた賃貸マンションの窓からは藻岩山がよく見えるので、山好きの私としてはその姿がどうしても気になってしまいます。

赴任して早々、関係各機関へご挨拶に伺いましたが、「北海道支所を頼りにしています」、「これからも情報交換よろしくお願いします」等のうれしいお言葉を数多く頂戴しました。これは、これまで北海道支所に勤務された方々の実績の積み重ねによるものですが、今後もこのような期待に応えていくため、私も微力を尽くしたいと思います。そのためには、北海道の畜産現場で何が問題になっているのか、家畜衛生の面から何が求められているのかを的確に把握し、北海道支所で何をすべきか、何が出来るかを、支所の職員と一緒に考えていく必要があります。とは言っても、私はこれまで飼料の安全性に関わる試験研究に携わってきましたので、感染症に関する知識も表面的なものに過ぎませんし、初めての支所勤務で、北海道の畜産事情に関する基礎知識はほとんどありません。道の行政部局、家畜保健衛生所、NOSAI、試験研究機関、大学等の方々との情報交換はもちろん、可能な限り畜産農家へもお邪魔し、とにかくいろいろなことを自身の目で見、関係者と率直に議論して、北海道の畜産に対する理解を深めていくことが重要だと考えています。

こんなことをあれこれ考えていたら、ふっと小田実の『何でも見てやろう』を思い出し、改めて

読み直してみようと文庫本を書店で求めました。「小田実」と書いても、若い方々からは「おだみのるって誰？」と言われそうですが、高校1年で学園紛争を実体験し、「全共闘世代」にかろうじて引っかかっている私は、小田実（おだまこと）の『何でも見てやろう』を読み直しながら多感な？時代を思い出し、好奇心を失わないことと、ともかく「やってみる」ことが何より大切だと再認識しています。

ところで、何でも見てやるためには、移動速度も重要です。徒歩や自転車でゆっくり歩いてみると、車の移動では気づかなかった風景が見えてくるものです。また、立ち止まり、振り返って逆方向から眺めてみると、全く違う景色に出会います。つくばで乗っていたマウンテンバイクもこちらに持ってきました。山歩きとともに鉄道が40年来の趣味である私にとっては、北海道の鉄道旅行も楽しみの1つです。プライベートでは、徒歩や自転車で、あるいは各駅停車の列車で、ゆっくりと北海道を見て回ろうと思っています。

4月初めに赴任した時には、藻岩山はまだまだ冬の装いでしたが、5月の声を聞くと遠目にはすっかり雪も消えました。北海道農業研究センター圃場の向こうに聳える空沼岳や、はるか遠くに見える夕張の山はまだまだ雪景色ですが、いよいよハイキングシーズン到来という感じです。バタバタしていた4月があっという間に過ぎ、ゴールデンウィーク後からは私の「北海道何でもみてやろう、仕事編」も本格始動ですが、「プライベート編」は、新緑の藻岩山原始林ハイキングから始まりそうです。